

令和3年1月 経営経済動向調査結果（要約）

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会

宇城久地域ビジネスサポートセンター（宇治商工会議所・城陽商工会議所・久御山町商工会）

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会では、景気動向を把握するために、宇治・城陽・久御山区域内に有する企業を対象にアンケート調査を行った。

今回は、令和2年7月～12月期実績と、令和3年1月～6月期予測についての調査を本年1月に実施。534社から回答（回答率53.4%）を得た。

1. 業界の景気

各企業が感じる“業界の景気”の全業種BSI値をみると、令和2年下期実績は「上昇」とした企業が9.3%、「下降」とした企業が67.6%、BSI値が▲29.2と、新型コロナウイルス感染症が長引く影響で、前期に続き大幅なマイナスを示す結果となった。BSI値を令和2年下期予測と比べると、予測よりも「上昇」と「下降」の乖離幅が減少し、BSI値は8.2ポイント回復する傾向にあったが、令和3年上期予測では、2回目の緊急事態宣言の影響もあって、先行きへの不安感が広がる企業が多い結果となっている。

業種別の下期実績では、製造業、卸・小売業、サービス業の「上昇」が10%を超え、改善の傾向を見せたが、GoTo事業等への期待感で前期予測の「上昇」値が最も高かった飲食業や、輸送需要等が激減したと思われる運輸・通信業では値が低く、令和3年上期予測も低調である。

規模別でみると、A・B規模企業ともにBSI値は若干の改善をみたが、依然としてマイナスの状況で、上期予測でもマイナス幅が増加するとの結果となっている。

業界の景気	令和2年1月～6月			令和2年7月～12月						令和3年1月～6月		
	実績			予測			実績			予測		
項目	上	下	B	上	下	B	上	下	B	上	下	B
業種	昇	降	S	昇	降	S	昇	降	I	昇	降	I
全業種	4.3	77.8	▲36.8	3.6	78.4	▲37.4	9.3	67.6	▲29.2	6.8	68.8	▲31.0
製造業	3.8	79.0	▲37.6	4.2	81.6	▲38.7	11.0	67.8	▲28.4	10.6	65.4	▲27.4
卸・小売業	4.6	75.4	▲35.4	0.0	77.4	▲38.7	10.0	73.8	▲31.9	3.8	76.3	▲36.3
飲食業	0.0	96.6	▲48.3	6.9	89.6	▲41.4	3.0	93.9	▲45.5	0.0	97.0	▲48.5
運輸・通信業	0.0	76.9	▲38.5	0.0	84.7	▲42.4	0.0	79.2	▲39.6	4.2	79.2	▲37.5
建設業	10.5	64.6	▲27.1	4.2	61.7	▲28.8	7.6	45.5	▲18.9	3.0	54.5	▲25.8
サービス業	4.1	77.5	▲36.7	4.1	73.5	▲34.7	10.0	64.3	▲27.1	4.3	69.6	▲32.6
A規模企業	6.1	73.1	▲33.5	8.6	71.6	▲31.5	18.5	56.3	▲18.9	10.9	53.8	▲21.4
B規模企業	3.9	78.9	▲37.5	2.4	80.1	▲38.9	6.6	70.9	▲32.2	5.7	73.2	▲33.8

（注）BSI値とは、企業経営者の景気全般の見通しについて、強気、弱気の度合を示すもので、プラスならば「強気」「楽観」、マイナス（▲）ならば「弱気」「悲観」を意味する。
算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引きし、2分の1を乗じて計算する。
またA規模企業は従業員20人以上の企業で、B規模企業は19人以下の企業。

2. 自社の操業度

各企業における“自社の操業度”を全体的にみると、令和2年下期実績は▲26.2と、上期実績の▲32.7から6.5ポイント回復した。これは令和2年下期予測の▲34.9からみても若干ではあるが改善の傾向を示しており、徐々にではあるが新型コロナウイルス感染症の影響が和らいできたものと思われる。しかしながら、2回目の緊急事態宣言の影響による閉塞感や、現状から好転するだけの材料が乏しいとの認識からか、令和3年上期予測のBSI値では▲29.0と若干の悪化が予測されている。

業種別では、製造業、卸・小売業、建設業、サービス業の「上昇」が10%を超え、若干の改善傾向を見せた。一方、営業時間の短縮や自粛の要請があった飲食業では、GoTo事業等への期待感もあった令和2年下期予測に比べても実績の値は低く、「下降」とした企業が唯一90%を超え、BSI値も▲45.5を示しており、また改善の兆候もないため令和3年上期予測でも厳しい状況が続くと見込まれる。

3. 企業経営動向

・生産高又は売上高

各企業における“生産高又は売上高”を全体的にみると、令和2年上期実績のBSI値▲34.1が、令和2年下期実績では▲29.3と若干の回復を見せた。しかし、令和3年上期予測のBSI値は▲28.2と、多くの企業では大幅な回復は見込まれない状態が続くと予測している。

・営業利益

各企業における“営業利益”を全体的にみると、令和2年下期実績BSI値は▲30.6と、前期に大幅な悪化をしたままの状態、ほぼ横ばい推移をしている。令和3年上期予測でも“生産又は売上高”の回復が見込まれていないため、今期と同様の推移が見込まれる。

・雇用の状況

各企業における“雇用の状況”を全体的にみると、令和2年下期実績BSI値は▲7.0とほぼ横ばい推移している。令和3年上期予測では「増加」と回答する企業が若干増加したため、BSI値は▲5.3に回復すると見込まれている。

4. 当面の経営上の問題点

各企業における経営上の問題点で、**全企業を平均して最も多いのは、「売上・受注不振」**の69.1%であり、ついで「求人難」27.0%、「商品価格・受注単価安」と「原材料価格高」19.5%、「人件費の高騰」16.3%の順になっており、経営上の問題点として「売上・受注不振」が突出している。

業種別では、全ての業種で「売上・受注不振」を一番目に挙げており、飲食業(84.8%)、卸・小売業(75.6%)、製造業(71.5%)の3業種で回答の7割を超えている。規模別にみても、A規模企業(60.3%)、B規模企業(71.7%)とも「売上・受注不振」を一番目に挙げています。

5. 新型コロナウイルス感染症対策について期待する支援等について

新型コロナウイルス感染症で期待する支援等について、最も多い回答は301社の「新たな補助金制度などの創設に向けた国や自治体への働きかけ」で、回答事業者の58.1%を占めた。ついで「税の軽減など行政からの支援情報の提供」で255社(49.2%)、「各種補助金・助成金の申請支援」で253社(48.8%)と、事業継続への支援に期待する声が上位を占めた。一方で「PCR検査の迅速化と受診体制充実への要望」が204社(39.4%)が、「マスクなどの感染拡大を防止する物資確保への支援」にも71社(13.7%)と、新型コロナ感染拡大防止に向けた支援についても期待感が大きい。

また新型コロナウイルス感染症対策で借主負担の少ない融資制度も新設された状況においても、さらなる「融資などの資金調達支援」について129社(24.9%)が回答していることから、多くの事業所がコロナ禍での資金繰りに苦慮する状況が推測される。